

やくもにじいろマップ

歴史

今金・せたな方面



↑ せたな方面

↑ 札幌・長万部方面

江差・乙部方面 ↓

函館・森方面 ↓



コンビニエンスストア

厚沢部方面 ↓

歴史

日本海と太平洋で異なる歴史が楽しめる

① 八雲町郷土資料館/木彫り熊資料館

場所：八雲町末広町154
開館時間：9:00～16:30
休館日：月曜日・祝日・12月29日～1月5日
入場料：無料
TEL：0137-63-3131（八雲町教育委員会）



北海道定番土産の「バター飴」も実は八雲が発祥。郷土資料館では、今は幻となった「元祖神原のバター飴」のバター飴製造機を見ることができます。製造機からは、ほんのりとバターの香りが…！※体験希望者は係員まで

やくも豆知識

② 八雲神社

場所：八雲町宮園町56

尾張からの入植者が地域の守り神として神社を建てたことが八雲神社の始まりとされています。愛知県にある熱田神宮の唯一の分社となり、徳川慶勝命が合祀されています。



③ 梅村庭園

場所：八雲町末広町151-1 TEL：0137-63-3131（八雲町教育委員会）

愛知県から八雲へ移住し、でんぷんづくり、お菓子づくり、森林づくり等を行っていた梅村多十郎の庭園。四季折々の景観が楽しめます。

開園時間：10:00～16:30（4月）、9:00～17:00（5～10月）
10:00～16:30（11～12月）
休園日：毎週月曜日※月曜日が祝日の場合は翌日（5～10月）
毎週月曜日・祝祭日（11～4月）
12月29日～3月31日は冬季休園



⑦ 奇岩雲石

場所：八雲町熊石雲石町123



享禄2（1529）年頃のアイヌと和人の抗争で、松前軍は戦いの末に敗北。松前軍が命からがらこの奇岩に逃げ込んだ時、黒雲が岩の間から沸き上がり、地鳴りとともにあたりが真っ暗になりました。アイヌ軍はこれに恐れをなして逃げ去り松前軍が勝利を取めたという伝説が残っている場所です。奇岩の上には、元和2（1616）年頃に八雲神社が建てられたといわれています。

八雲開拓の歴史と木彫り熊の歴史が学べる！

～ 尾張徳川家によって開拓された八雲地域 ～

明治11（1878）年、尾張徳川家17代当主の徳川慶勝が明治維新により仕事のなくなった旧家臣のため、ここ八雲の原野に入植させ、開拓を始めました。

「八雲」という名前も「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」という古事記の中に登場する日本最古の和歌をもとに慶勝が命名したといわれています。

～ 木彫り熊発祥の地 八雲 ～

北海道土産の定番であった「木彫り熊」は実は八雲が発祥です。

徳川農場主として、当時経済的に苦しい状況にあった農民の暮らしをどうにかできないかと考えていた、19代当主徳川義親が旧婚旅行で訪れたスイスで木彫り熊を購入し、八雲へ持ち帰り、農閑期の副業として農村美術品（ペザントアート）を作ることを推奨したのが始まりとされています。木彫り熊資料館では、見本となったスイスの木彫り熊や「面彫り」や「毛彫り」などの色んな技法で作られた北海道各地の木彫り熊を見ることができます。



面彫り



毛彫り

④ 山越内関所之跡

場所：八雲町山越

山越内関所は、日本最北の関所として江戸時代に建てられ、アイヌ民族と和人のお互いの生活圏を繋ぐ境界として重要な場所でした。近くにあるJR山越駅は、文久元（1861）年に廃止された関所をイメージして建てられました。

⑤ 落部八幡宮

場所：八雲町落部332

明治33（1900）年に大正天皇が結婚された時、辨開風次郎がアイヌ民族として初めて御所に参内し、お祝いとして2頭の熊を献上しました。そのお礼としていただいた松が今も落部八幡宮の境内に植えられています。

⑧ 無量寺

場所：八雲町熊石相沼町129

寛保元（1741）年、大津波により犠牲になった人々を供養するために建てられた地藏菩薩像があります。地藏菩薩像の背中には3つの穴が開いており、大津波の犠牲者の遺体を引き上げる際にヤスでついで海中から引き上げたことからその跡を残したといわれています。



▼JR山越駅



⑨ 門昌庵

もんしょうあん



⑥ 円空上人滞洞跡

場所：八雲町熊石黒岩町

円空は、仏像を作りながら日本各地を修行して歩き、生涯で約12万体の仏像を彫ったとされるお坊さんで、熊石に訪れた際にも4体の仏像を残しました。円空が修行していたとされる洞窟自体はなくなりましたが、洞窟があった辺りには、石碑が建てられています。円空が作った仏像は、現在、町内の4つの神社に祀られています。

⑪ 根崎神社

八雲町熊石根崎町384

⑬ 相沼神社

八雲町熊石館平町41

⑫ 北山神社

八雲町熊石油川町361

⑭ 山越諏訪神社

八雲町山越201-1

※⑪⑫⑬は電話による事前予約制で公開（☎01398-2-3125）

※⑭は非公開

場所：八雲町熊石黒岩町553

古くからの歴史と熊石独自の文化を学べる！

～ 北前船と熊石 ～

北前船とは、江戸時代から明治時代にかけて日本各地の港で物資の売り買いを行っていた買積船です。蝦夷地では、主に昆布や塩引き鮭、身欠き鯨、鯨粕などを買い付けていたとされています。平成17（2005）年に八雲地域と合併し、八雲町となった熊石ですが、今でも北前船の影響を受け、他地方の文化が入り混じった熊石独自の文化が根付いています。

～ 松前藩との深い関わり ～

熊石地域（日本海側）は、八雲地域（太平洋側）よりも歴史が深く、鎌倉時代から和人が定住していたといわれています。江戸時代に入ってからには鯨漁が栄え、松前藩の経済的基盤を支える重要な拠点となり、「和内地」と「蝦夷地（アイヌ居住地）」の境界として日本最北の番所も設けられていました。

明治維新に起きた旧幕府軍と新政府軍との戦いでは、敗走する松前藩主が熊石の関内から脱出するという事件（藩主の津軽落着）の舞台にもなりました。

⑩ 熊石歴史記念館

場所：八雲町熊石平町325-3

開館時間：9:00～17:00

休館日：月曜日・祝日の翌日（翌日が土日の場合開館）・11月～3月

入場料：大人330円 小人160円

TEL：01398-2-2200

WEB版マップとアクセス情報はこちらから

